

model

某都市の再開発の様子を眺めていると、インターネットの討論番組で某氏が何度も述べていたことが思い出された。要するに「進歩主義 - 辺倒は危険である。」といった趣旨のことであるとと思う。

進歩主義という思想は、簡単に言えば「常に型を変えていく」思想である。「型」とは「model」である。現実の生活の中に様々なmodelがある。都市、車は分かりやすい例であろう。

都市については、どうしても日本と欧州を比べてしまう。日本と欧州とでは、そもそも建物に対する考え方や歴史的背景が異なり、政財官の考え方も違うと思われるので、そう単純でないことは承知している。しかしながら、欧州や中東に見られるように、旧市街と新市街とを分けて、歴史のある建物をしっかりと残すことはできなかつたのだろうか（今後の研究課題だが、日本という国は、そもそもスクラップ・アンド・ビルドの国なのかもしれないと思う）。

車については、1980年代の日本・欧米のモデルチェンジの周期が、日本4.6年、米国8.1年、欧州12.2年というデータがある。1980年代は車にまだまだ個性のあつた時代であり、前述の都市開発の例とあわせて、とてもうなずけるデータである。特に欧州車の個性は光つて見えた。しかしながら、近年の欧州車のモデルチェンジの周期はむしろ早いようなイメージがある。意識する市場の影響によるものか推察している。

① 時間をかけないで手に入らないもの、② 人が頑張らないで手に入らないものは尊い。マウンティングをするならこのスツでやるのがよいと思う。ビジネスモデルにおいても、変えねばならないものと変えてはならないものの峻別こそが、経営者の腕の見せ所である。

江幡 淳